

第3章 地区別計画

1. 地区別計画の策定状況

(1) 地区別計画の策定状況

平成21年6月から、連合町内会エリアを単位とした7つの地区ごとに、地区分科会を3回程度開催し、地域の課題から検討するとともに、地域の皆さんが課題解決のためにできることを議論し、策定に至っています。

各地区の地区別計画の策定にあたって、支えあい連絡会・(見守り)ネットワークや地区社会福祉協議会等を中心としながら、連合町内会や地域の福祉保健に関わる活動を行っている人たちが参画し、策定しました。

(2) 各地区で共通して議論された内容

地区別計画は、区全体計画の基本方針に必ず当てはめていくのではなく、地域の課題認識からテーマを定めていく手法を多くの地区で取って検討してきました。高齢者、障害児・者、子ども(子育て支援含む)等の支援を必要とする方に**地域が主体となることができる活動について**行動計画として掲げるとともに、多くの地区で次のアからエのように認識が共通するものがありました。

ア すでに地域で行われている活動を連携させていくことが、地域でできる取組の充実に結びつくとの認識。

イ 災害時の要援護者避難支援の取組については、地域の中の重点的テーマであるとの認識。【全地区において、テーマ化】

ウ 様々な活動者に負担をかけない手法や、退職後の世代や子育て世代などの新たな世代の参画による担い手の発掘が地域活動の継続には必要との認識。“人材の育成”というよりも“担い手の発掘”という観点から考える必要があるとの認識。

エ 大量の情報が発信されている中で、必要な方に必要な情報が届く仕組みづくりが、取組の充実や新たな担い手の発掘に結びつくとの認識。

また、地区別計画を検討する中で、地域の中だけでは完結できないものの、「サロンなどの送迎や日常生活の利便性を維持するためのバス確保の検討」「地域の見守りを補完するような安否確認システムの検討」「要援護者情報について、行政などの関係機関と地域との情報共有のあり方の検討」「産科・小児科の不足や少子高齢化を踏まえ、地域医療体制の充実の検討」等の意見もありました。

(3) 地区別計画を検討していくなかでの共通認識

各地区において、多様な地域活動が行われているなかで、すでに行われている活動をいかに連携させていく(『つながる』)ことが、地域課題の解決、地域活動の一層の充実に必要との共通認識が生まれました。

(4) 地区別計画の推進にあたり

地区別計画の推進にあたり、各地区において支えあいの仕組みづくりに取り組んでいきます。



7 地区の人口、世帯数、高齢化率

栄区

人口	126,225人
世帯数	53,709世帯
年少人口比率	13.2%
高齢化率	22.4%
要援護者数	3,800人

【人口・世帯数・年少人口比率・高齢化率】

- 平成21年3月末現在
- 行政運営調整局総務課統計係より
- ※町・丁名は現存するものだけを掲げているため、区の合計世帯数・人口と、各町・丁ごとの世帯数・人口の合計が一致しないことがあります。
- ※年少人口比率:年少人口(0~14歳)を人口で割ったもの
- ※高齢化率:高齢者人口(65歳以上)を人口で割ったもの

【要援護者数】

- 平成21年9月現在
- 関係資料から作成
- ※ここでの「要援護者」は、次のとおりです。
- ①介護保険の要介護度3(重度の介護を要する:立ち上がりや歩行等が自力でできない等)以上の居宅で生活する方
- ②要支援以上で一人暮らしの方、いずれもが要支援以上の高齢者のみ世帯
- ③認知症のある方(要介護度2以下で、認知症の日常生活自立度がⅡ以上の方)
- ④障害者自立支援法(身体・知的・精神障害)に基づく障害程度区分認定者の方、または視覚障害者・聴覚障害者については身障手帳1~3級の方

【豊田地区】

人口	29,208人
世帯数	12,485世帯
年少人口比率	13.6%
高齢化率	21.2%
要援護者数	738人

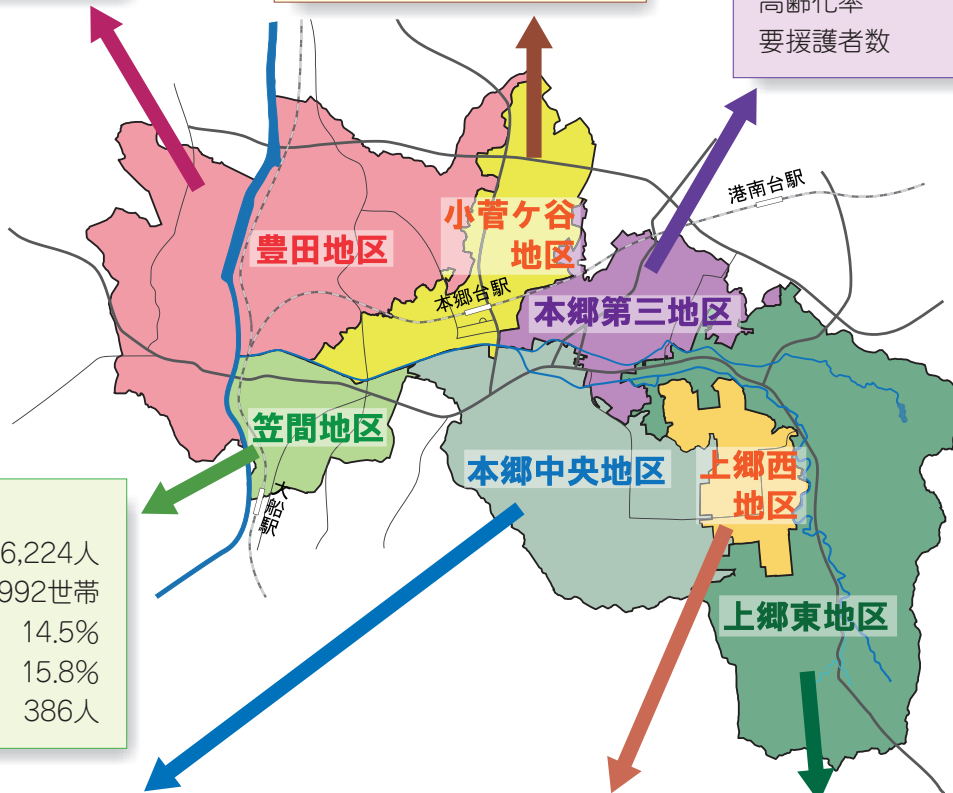
【小菅ヶ谷地区】

人口	17,186人
世帯数	7,348世帯
年少人口比率	15.8%
高齢化率	18.8%
要援護者数	553人

※町界で区分しているため、連合町内会のエリアとは一部異なっている部分があります。

【本郷第三地区】

人口	15,304人
世帯数	6,434世帯
年少人口比率	14.9%
高齢化率	20.0%
要援護者数	444人



【笠間地区】

人口	16,224人
世帯数	6,992世帯
年少人口比率	14.5%
高齢化率	15.8%
要援護者数	386人

【本郷中央地区】

人口	23,347人
世帯数	10,355世帯
年少人口比率	11.3%
高齢化率	27.4%
要援護者数	694人

【上郷西地区】

人口	7,517人
世帯数	3,082世帯
年少人口比率	9.8%
高齢化率	35.2%
要援護者数	321人

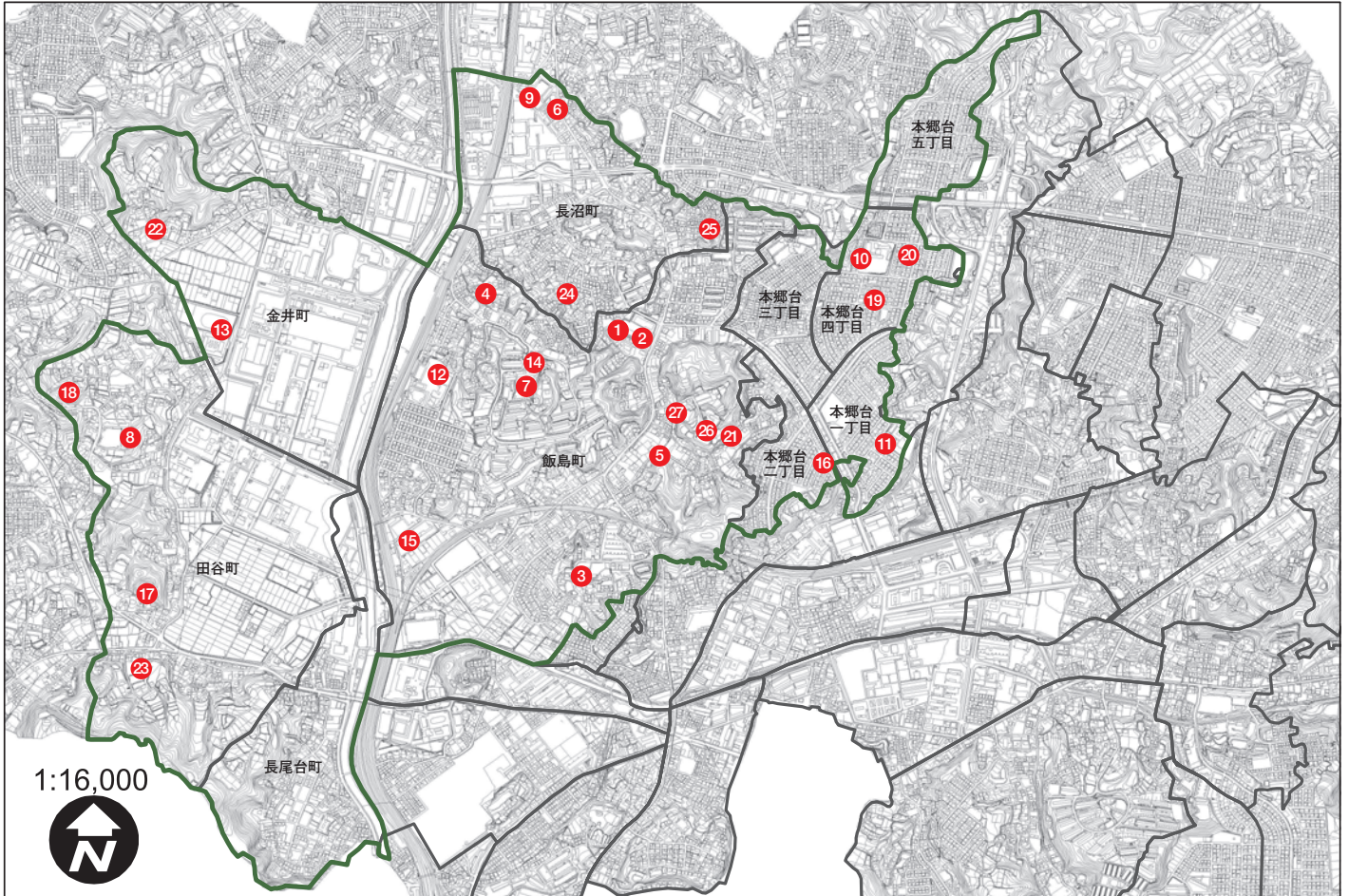
【上郷東地区】

人口	16,939人
世帯数	7,005世帯
年少人口比率	11.5%
高齢化率	24.4%
要援護者数	407人

豊田地区

(1) 豊田地区の概要

本郷台駅、大船駅、戸塚駅の3駅が最寄駅であり、バス利用が多い地区です。長尾台町、田谷町、金井町、飯島町、長沼町、本郷台一～五丁目からなります。JR東海道線や粕尾川に沿って東側は主に住宅が多い地区、西側は工場地帯となっています。また、田谷町、金井町などには、農地が比較的多く残っており、水田も見られます。ほとんどの地区で高齢化が進行していますが、マンション開発などで若年層が流入したことにより、子育て世代が増えている地区もあります。



横浜市まちづくり調整局都市計画基本図データにより作成【横浜市地形図複製承認番号 平21 まち都計第3257 号】

(2) 施設等の地域資源 (平成21年12月現在)

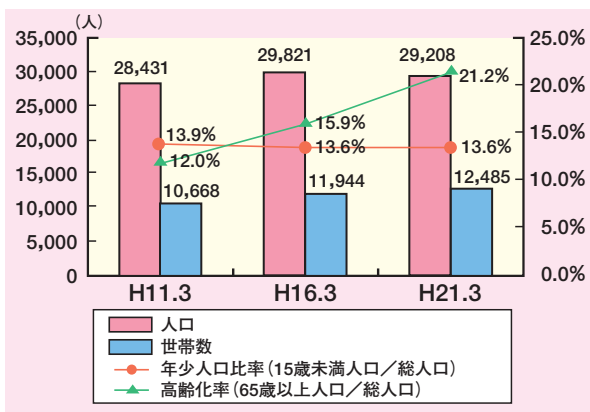
区分	番号	名称	区分	番号	名称
公共施設	①	豊田地域ケアプラザ	保育園	⑮	大船ルーテル保育園分園
	②	豊田地区センター		⑯	すずかけ保育室(本郷台公園前)
	③	飯島コミュニティハウス	特別養護老人ホーム	⑰	田谷の里
幼稚園	④	飯島幼稚園	介護老人保健施設	⑱	ケアポート・田谷
	⑤	飯島東幼稚園	通所介護(デイサービス)	⑲	デイサービスセンター ほほ笑み
	⑥	豊田幼稚園	地域密着型 サービス施設	小規模多機能型居宅介護	⑳
⑦	飯島小学校	認知症対応型共同生活 介護 (グループホーム)		㉑	グループホームひかり 横浜本郷台
⑧	千秀小学校		㉒	グループホーム さくら園	
小学校	⑨		豊田小学校	㉓	グループホーム クロスハート田谷・栄
	⑩		小菅ヶ谷小学校	㉔	グループホーム ちいさな手横浜さかえ
	⑪		本郷台小学校	㉕	ニチイのほほえみ長沼町
中学校	⑫	飯島中学校	障害者のための施設	㉖	地域作業所 まってる
高等学校	⑬	県立金井高等学校		㉗	地域作業所 第2まってる
保育園	⑭	飯島保育園			

(3) 豊田地区の統計データ

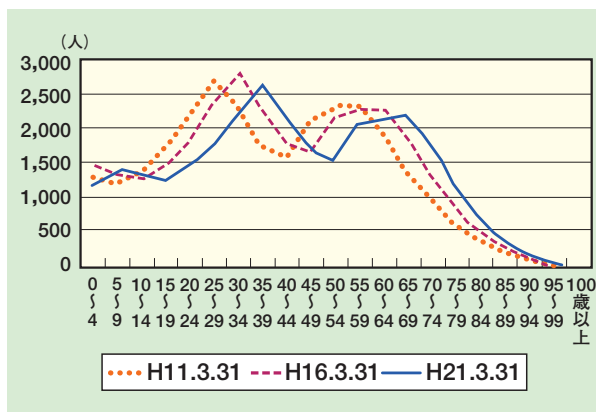
- この10年で人口は777人の増加、世帯数は1,817世帯の増加となっています。
- 15歳未満の年少者の割合は、平成11年には7.2人に1人でしたが、平成21年には7.4人に1人に減少しています。65歳以上の高齢者の割合は、平成11年には8.3人に1人でしたが、平成21年には4.7人に1人に増加しています。
- 人口の一番多い年齢層が、平成11年では25～29歳、平成21年では35～39歳となっています。



■人口・世帯数・年少人口比率・高齢化率の推移



■年齢層別の人口変化



(4) 豊田地区分科会の様子

〔会場〕 豊田地域ケアプラザ・豊田地区センター

〔開催の状況〕

回数	開催日	参加人数	検討内容
第1回	7月13日	23名	豊田地区の現状と課題を共有しよう
第2回	8月25日	13名	優先課題の行動計画について話し合おう (望ましい町の姿、具体的な行動計画など)
第3回	9月30日	13名	豊田地区の計画をまとめよう

〔地区分科会での意見や感想〕

■それぞれの団体によって、地域に対する問題点や気づくところが違うと認識することができました。

■地域の問題点を把握して対応策を考えることができたと思います。

■行動計画への認識は共有できたが、それぞれの団体間の交流が足りない。

その他多数のご意見・ご感想を出し合いました。

活発な話し合いになりました!





目 標： つながりひろげていこう！

この計画は、地区社会福祉協議会・支えあい連絡会が中心となる

推進テーマ

交流の場を充実させよう

交流の場は人がふれあうきっかけとなります。身近な地域に交流の場があることで、地域のつながりが活性化されます。また、参加者が地域の活動を理解し、新たな取組が生まれるきっかけとしても役立ちます。

活動の担い手をひろげよう

誰もが参加しやすい工夫をすることで、活動に対する理解者が増え、活動が活性化されます。高齢者でも子育て中の方でも働き世代でも、関わられるように活動の場、内容の検討が必要です。

安心して暮らせるまちづくりをすすめよう

地域の中で安心した生活を送っていくには、人と人とのつながり、活動団体同士のつながり、つながりの中で総合的に助け合うまちづくりの視点が重要です。お互いがつながりを意識した取組を進めていくことにより、それぞれの活動に広がり生まれるとともに、地域に一体感が生まれます。

子育て環境を充実させよう

次世代を担う子どもたちが地域に愛着を持ち、活動に参加していくこともその家族にとって地域とのつながりの機会となっていきます。これらのことも意識した次世代育成の取組が求められます。

取り組みの内容

- ★世代間交流の場をつくる
- ★障害児・者の理解を深める機会の充実
(防災訓練、作業所まつりなど)

☆ミニデイ、サロン等既存の取組を充実させながら、誰でも気軽に参加できる取組

- ★あらゆる世代が負担を感じず気軽に参加できる場の充実

- 参加しやすい環境づくりの工夫
- 定年退職者の能力を活用する場づくり
- 若い世代(特に男性)を取り込める工夫
- 小さい時からボランティアの体験ができる工夫
- 特技を生かした活動ができる人材を発掘

- ★各活動団体が新たな人材の受け入れ環境を整える

- ★団体相互の連携による見守り活動

例えば、配食サービスの弁当を、さまざまな見守り活動を行っている人たちが必要に応じて連携して届けるなど
夕食の配達など配食活動を中学生にも参加してもらう

- ★災害時要援護者避難支援の取組の推進
- ★身近なところで受けられる講座の開催(悪質商法防止など)
- ★認知症の方の理解とその家族のサポートの仕組みづくり

- ☆高齢者や障害児者の支援の取組み
- ☆個人情報の適切な取り扱いの推進

- ★子育て相談の機会の充実

身近なところに日常的に子育ての相談や悩みごとを聞いてスペースを考える

- ★子育て中の親が参加できる社会参加活動の場をつくりだす
気軽に参加できる受け入れ体制をつくる
(例えば・保育ボランティア、保育室スペースを用意するなど)
- ★世代間交流の場をつくる(再掲)

- ☆今ある活動に世代間交流を組み込む工夫
- ☆小・中学生の農業体験

～人と人、活動と活動、団体と団体～

って推進し、区・区社協・ケアプラザがそれを支援していきます！

★は推進していく取り組み
☆は推進していきなから具体的な取組を検討していく事項
●は推進していくための視点

★学校と連携した小・中・高校生等によるボランティア活動の充実


活動を協働してつなげていく「リレーアクション」
① 団体相互の連携による情報発信
 ・自治会町内会の会報や団体の機関紙の活用（記事を掲載する）
 ・配食サービスの弁当を届けるときや、ミニデイ、サロン等の集まりの時を利用して、催しのチラシや対象者に合わせた情報を配付する
② 活動の情報共有の場の充実
 ・地区社協活動の中に情報を共有する場をつくる



もらえる人、

取り組みを検討していく場 検討メンバー

- 検討メンバー ●
- 地区社協
 - 連合町内会、各自治会・町内会
 - 民生委員・児童委員
 - シニアクラブ
 - ミニデイ、サロン

- 検討メンバー ●
- 地区社協
 - 連合町内会、各自治会・町内会
 - 支えあい連絡会
- 


- 検討メンバー ●
- 地区社協
 - 連合町内会、各自治会・町内会
 - 民生委員・児童委員
 - 友愛活動推進員
 - 消費生活推進員
 - 積み木（ボランティア団体）

- 検討メンバー ●
- 地区社協
 - 連合町内会、各自治会・町内会
 - 子供会 ● PTA ● シニアクラブ
 - 民生委員・児童委員、主任児童委員
 - 子育て団体 ● 青少年指導員
 - 積み木（ボランティア団体）
 - ミニデイ、サロン

取組の将来像

- 身近な地域に交流の場がある
- 交流の場が、緩やかな見守りとして、ちょっとした相談の場として、活用されている

- 活動に対する理解者が増えている
- あらゆる世代に担い手が広がっている

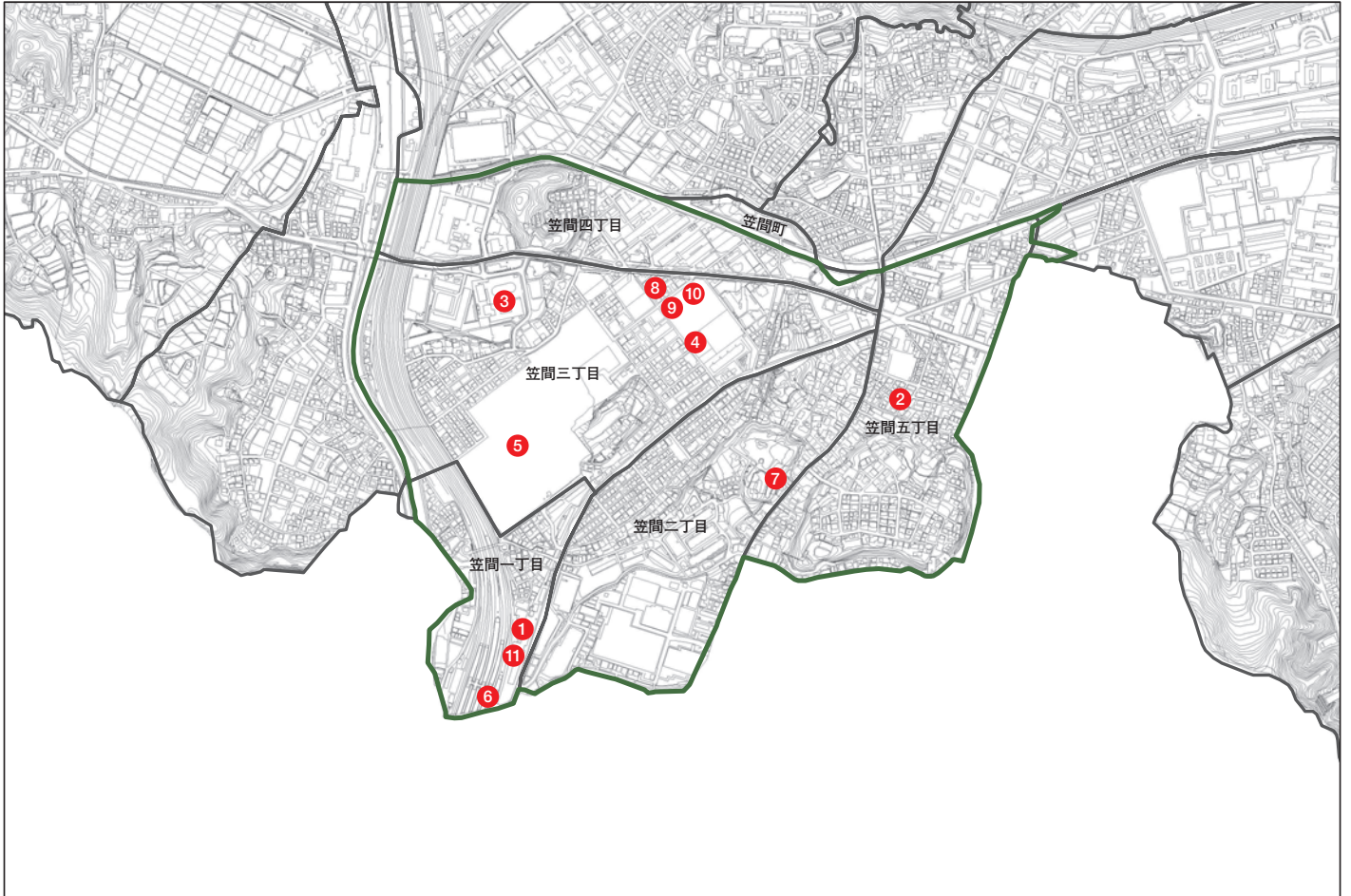
- 地域に一体感が生まれ、より暮らしやすいまちとなっている
- 

- 地域が子育てを見守っているという風土ができていく
- 子育て世代が支援を受けるだけでなく、担い手として社会参加がすすんでいく

笠間地区

(1) 笠間地区の概要

大船駅を中心とした交通・買物の利便性が高い地区で、笠間一～五丁目、笠間町からなります。環状4号線や下永谷大船線沿いに店舗、マンションが点在しています。平成18年に大船駅北口「笠間口」が完成し地域の利便性も向上しました。古くからの住宅地では高齢化が進行していますが、大規模に開発されたマンションでは子育て世代の割合が多くなっており、地域全体では高齢化率は区平均より下回っています。



横浜市まちづくり調整局都市計画基本図データにより作成【横浜市地形図複製承認番号 平21 まち都計第3257 号】

(2) 施設等の地域資源 (平成21年12月現在)

区分	番号	名称
公共施設	①	笠間地域ケアプラザ
幼稚園	②	笠間幼稚園
小学校	③	笠間小学校
保育園	④	かさまの杜保育園
届出済認可外保育室	⑤	ももちゃんナーサリー大船ルーム
親と子のつどいの広場	⑥	(仮称) 大船駅親と子のつどい広場 (平成22年10月開設予定)
通所介護(デイサービス)	⑦	ケアセンターリトルバンブー
地域密着型サービス 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	⑧	グループホーム湘南かさま
障害者のための施設	⑨	リエゾン笠間
	⑩	ソイル栄
	⑪	杜の台処

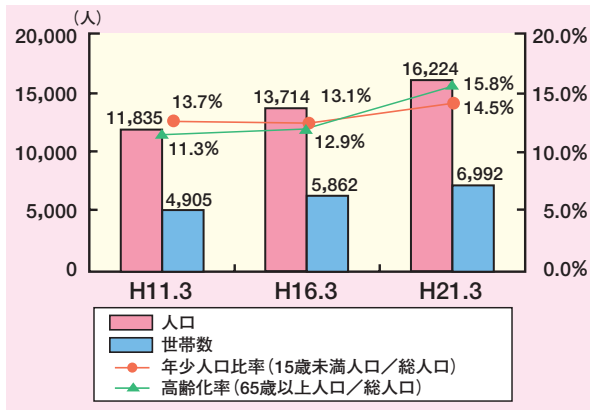


(3) 笠間地区の統計データ

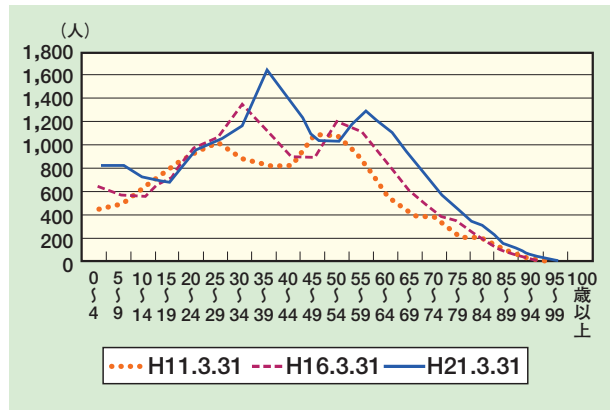
- この10年で人口は4,389人の増加、世帯数は2,087世帯の増加となっています。
- 15歳未満の年少者の割合は、平成11年には7.3人に1人でしたが、平成21年には6.9人に1人に増加しています。また、65歳以上の高齢者の割合は、平成11年には8.5人に1人でしたが、平成21年には6.3人に1人に増加しています。
- 人口の一番多い年齢層が、平成11年では45～49歳、平成21年では35～39歳となっています。



■人口・世帯数・年少人口比率・高齢化率の推移



■年齢層別の人口変化



(4) 笠間地区分科会の様子

〔会場〕 笠間地域ケアプラザ

〔開催の状況〕

	開催日	参加人数	検討内容
第1回	7月27日	14名	まちの現状や課題について共有しよう
第2回	10月3日	18名	優先課題に対する具体的取り組みを考えよう

〔地区分科会での意見や感想〕

- 短い時間の中で人々の考えていることが出され、グループ別に課題が再認識できて良かった!
 - 時間が短く結論が出せない。ポイントを絞ってもっと継続して話し合いたい。
 - 行政と地域が取り組んでいく問題ですが、なかなか難しいことが山積みしていることですので、懸命に考えて協力していきたいと思えます。
 - 少しずつではあるが準備し、1年1年目標を立ててやっていきたい。
- その他多数のご意見・ご感想を出し合いました。

活発な話し合いになりました!





スローガン：それぞれの団体等の活動を地域に

テーマ	取り組んでいくこと	こうなった
要 援 護 者 の 支 援	<p>(1) 町内会自治会を中心に行政・民生委員・各団体・施設が協力して要援護者を把握する。小さな単位(班・町内会)でのネットワークづくり</p> <hr/> <p>(2) 転入者に対してのアプローチ</p> <hr/> <p>(3) マップの作成(危険箇所・避難場所)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内会自治会の組織の中 ● いざと言う時に要援護者の <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 転入者情報を町内会自治会 ● 転入者が早く地域に慣れ親 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● マップを作成して身近なと
交 流 の 場	<p>(1) 交流に活用できる会館、活動内容について、情報を集約し広報する</p> <hr/> <p>(2) 世代を越えた交流活動</p> <hr/> <p>(3) 現在の活動を見直し、担い手と参加者増を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての住民が身近な場所に ● 近所に気軽に出かけられる ● 集約された情報はプリント <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 顔見知りになり支えあいの ● 定期的な町内会館の開放 ● 三世代の方々の交流から優 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域では無理なく人材の発 ● 若い人達が参加して楽しめ ● 子供会や地域の青少年にお ● 人材を含めた色々な不足を ● 地域と学校が連携できてい ● 活動団体同士が相互交流・
青 少 年 の 健 全 育 成	<p>(1) あいさつ運動・隣近所ともっと仲良く</p> <hr/> <p>(2) 個人から団体へ 団体間で連携して活動を広げる→意識と心をひとつに</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 近所付き合いが深まり支え合 ● 住んでいる人の顔と名前が ● 隣人(青少年・児童を含めて) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● どんな時でも絶えず見守り ● 子どもたちの笑顔いっぱい

【区計画への提案】 ● 要援護者情報について、行政などの関係機関と地域との情報共有のあり方について検討が必要

【長期的な検討が必要なこと】 ● 中学生が参加する防災訓練

浸透させていく・日常的に取り組めることを実践していく

らしいな(将来像) ※取り組みの具体化に向け、引き続き検討を行います。

に助け合いネットワークが出来ていて、有事の時も普段の時も安心できる状態にある
支援体制ができていて ー安心保証普段時も活用して安心町内に 等

で把握し、いざというとき同じように対応できている
しみ生活が出来る 等

ころに配布することで、危険から身を守ることができている 等

ある交流拠点を知っており、利用している
サロンがある
として必要な人に配布されている 等

輪が広がる
や高齢者の保育園訪問など、日常的に幼児から高齢者まで交流できている
しさや協力を学べている 等

掘が出来ていて、日常から子育て支援・児童の見守り、高齢者・障がい者援護等の活動ができている
る組織やイベントが出来るようになる
互いに積極的に声をかけて各種行事の参加者が増えている
見出し、その不足を補った活動が推進できている
る
連携できている 等

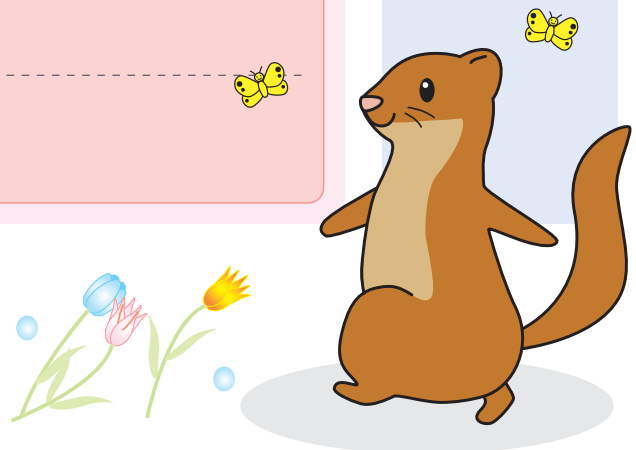
える安心な班(組)が笠間地域全体に広がる
わかる
が快い挨拶を交わし合える 等

の姿が見られるスクールゾーンができている
の街になっている 等

取組の場

町内会自治会が主体となり、地区社会福祉協議会と協働し、各種団体と連携していく

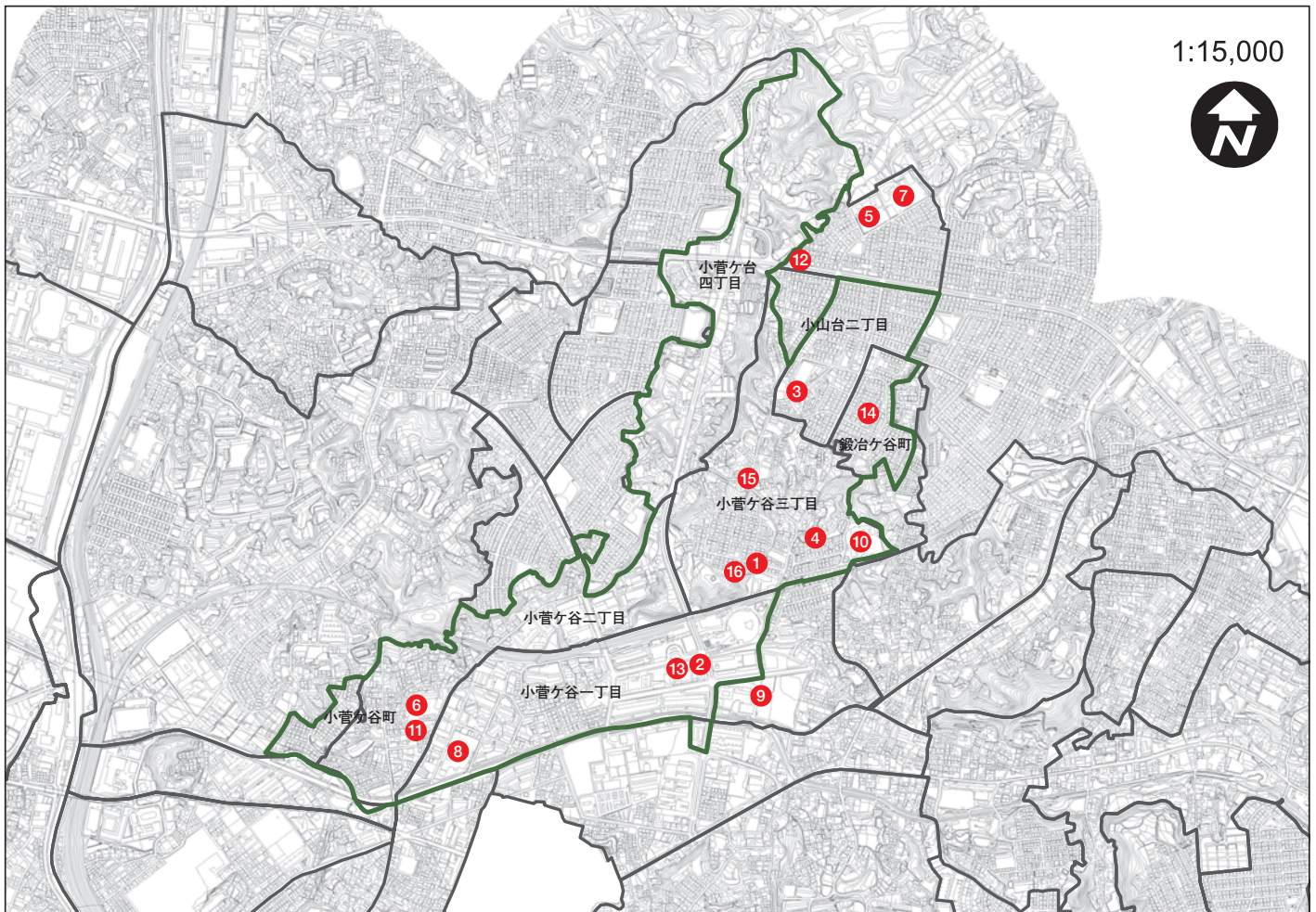
【進行チェックの場】
●地区社会福祉協議会拡大理事会



小菅ヶ谷地区

(1) 小菅ヶ谷地区の概要

本郷台駅を中心とする地区で、小菅ヶ谷一～四丁目、小山台一～二丁目、小菅ヶ谷町などからなります。昭和40年代後半に開発された地域で高齢化が進行しています。一方で、駅周辺や桂町戸塚遠藤線沿道ではマンションや戸建住宅の開発により子育て世代が増加しているのが特色です。平成21年には「小菅ヶ谷北公園」が一部開園しました。今後、全体の開園が期待されています。また、月1回、世代間交流サロン「ひだまり」が開催されており、こどもから高齢者まで地域の交流が図られています。



横浜市まちづくり調整局都市計画基本図データにより作成【横浜市地形図複製承認番号 平21 まち都計第3257 号】

(2) 施設等の地域資源 (平成21年12月現在)

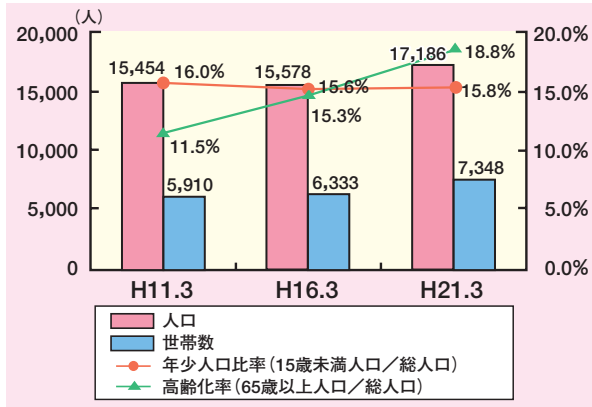
区分	番号	名称	区分	番号	名称
公共施設	①	小菅ヶ谷地域ケアプラザ	高等学校	⑨	県立柏陽高等学校
	②	さかえ区民活動センターぶらっと栄	特別支援学校	⑩	本郷特別支援学校
幼稚園	③	小菅ヶ谷幼稚園	保育園	⑪	大船ルーテル保育園
	④	新大船幼稚園		⑫	エミールの森ひよこ保育園
小学校	⑤	小山台小学校	親と子のつどいの広場	⑬	OYAKO CLUB チューリップ
	⑥	西本郷小学校	通所介護(デイサービス)	⑭	茶話本舗デイサービス横浜栄区鍛冶ヶ谷
中学校	⑦	小山台中学校	地域密着型サービス施設 小規模多機能型居宅介護	⑮	小規模多機能型居宅介護かりん
	⑧	西本郷中学校		障害者のための施設	⑯

(3) 小菅ヶ谷地区の統計データ

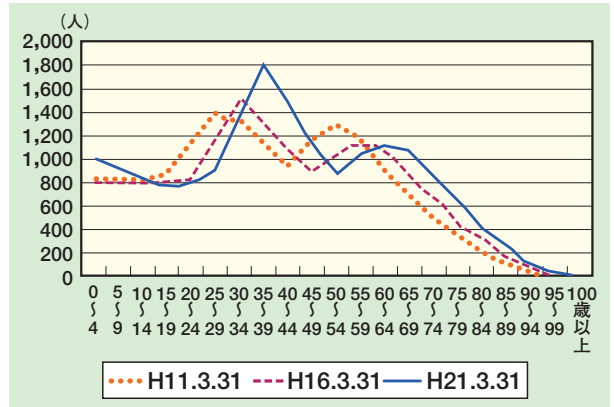
- この10年で人口は1,732人の増加、世帯数は1,438世帯の増加となっています。
- 15歳未満の年少者の割合は、平成11年には6.3人に1人で、平成21年も変わらず6.3人に1人となっています。
- 65歳以上の高齢者の割合は、平成11年には8.7人に1人でしたが、平成21年には5.3人に1人に増加しています。
- 人口の一番多い年齢層が、平成11年では25～29歳、平成21年では35～39歳となっています。



■人口・世帯数・年少人口比率・高齢化率の推移



■年齢層別の人口変化



(4) 小菅ヶ谷地区分科会の様子

〔会場〕 小菅ヶ谷地域ケアプラザ

〔開催の状況〕

	開催日	参加人数	検討内容
第1回	6月28日	23名	地域の課題について話し合おう
第2回	7月26日	25名	優先課題の行動計画について話し合おう
第3回	10月7日	22名	小菅ヶ谷地区で考えた小菅ヶ谷地区の取組を考えよう

〔地区分科会での意見や感想〕

- いろいろな関係者と一同に集まって共に討議できるのは貴重な経験でした。地域を良くしようという気持ちがひとつになって、それを進めていく思いが強くなります。
- 皆さん色々と活動をされていらっしゃるのがよくわかりました。
- いろいろな意見が聞かれて有意義でした。今後はいろいろな世代の人たちの意見も聞いた方がよいのではないのでしょうか。その他多数のご意見・ご感想を出し合いました。

活発な話し合いになりました!





みんながつながるまちを目指して取組を推進して

テーマ

取組みの内容

取組を検討していく場
主な検討メンバー

取組のねらい

1.身近な所から見守りを進めよう

- ①声かけやあいさつでつながっていきこう
→学援隊、パトロール、隣近所でのあいさつを続けて行っていきこう
- ②災害時要援護者避難支援の取組について自治会町内会が共有できる場をつくろう
- ③地域活動団体と自治会町内会が連携して、見守りのためのネットワークの仕組みをつくろう
→話し合いの場をつくろう
→自治会町内会と配食グループが連携し、配食を通した見守りを進めよう
→いちご会の配食を拡大しよう
- 「ひだまり」を活用した見守りやつながりづくりを推進しよう
- 子育て世代へ配食を拡大できないか検討しよう

全体の検討・推進の場：支えあい連絡会【自治会町内会、地区社会福祉協議会、シニアクラブ、ひだまり実行委員会、(実管会・たまり場こすがや・ルーテル昼食会・積み木・花みずきの会・ぬくもり小菅ヶ谷・OYAKO CLUBチューリップ)】

- ①自治会町内会、各種団体、ボランティアグループ 等
- ②支えあい連絡会+自治会町内会+民生、消防などでの検討会(事例発表など)
- ③自治会町内会と各種団体(民生、インフォーマルサービス団体等)



- ①向こう三軒両隣の顔が見える関係づくりにつながることを目指す
- ②自治会町内会が情報交換することで、災害時要援護者支援の取組がしやすくなる
- ②災害時の要援護者の情報を関係機関で共有することができる
- ②自治会町内会が中心となって、地域全体で災害時要援護者支援の取組を推進する
- ③要支援者が相談・支援につながるよう橋渡しする役割の人を地域の中で増やす
- ③地域で気になる人の情報が把握されたら地域から専門機関に情報が届き、具体的な支援につながる仕組みを目指す
- ③地域活動団体と自治会町内会がお互いのノウハウや情報を交換し合い、地域生活に密着した支援を行うことができる

2.若い

- ①自分の趣味を活かし
- ②地域で活躍しているみをつくろう
- ③若いお母さん向けの

地区社会福祉協議会
ひだまり
ボランティアグループ

- 家族ぐるみやご近所
- 関心のあるテーマやる仕組みを考え、地
- 地域とつながる機会をきっかけになる

区計画への提案
「サロンなどの送迎の」「地域の見守りを補完

いこう！ ～ふれあって支えあっていくまちづくり～

世代と地域をつなげよう

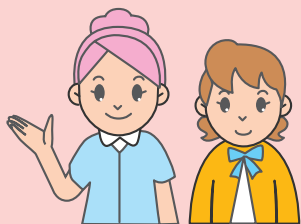
たボランティアの活動の場をつくろう
各ボランティアの方々の情報を共有できる仕組

料理講座を開催しよう



民生委員・児童委員、保健活動推進員、友愛活動推進員、ボランティアグループ
等)、栄区生活支援センター、小菅ヶ谷地域ケアプラザ、区社会福祉協議会、区役所]

等

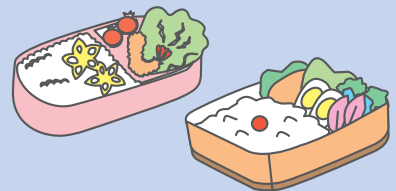


ぐるみでひだまりに参加する人が増える
生涯学習活動から地域福祉保健活動へつなが
り活動の担い手を増やすことを目指す
の少ない子育て世代が、地域に顔見知りをつく

ためにバスの確保を検討したい」
するような安否確認のシステムを検討したい」

3.地域で情報を伝え合おう

- ①地域のインフォーマルサービスや、自治会町内会の活動の情報をまとめよう
→支えあい連絡会に情報を持ち寄る
→参加者募集と担い手募集の情報も載せる
- ②配食のお弁当と一緒に情報を届けるなど、情報発信の工夫を考えよう
→配食のお弁当を自治会町内会に届け、その中で配布する等



自治会町内会
各種団体
ボランティアグループ 等



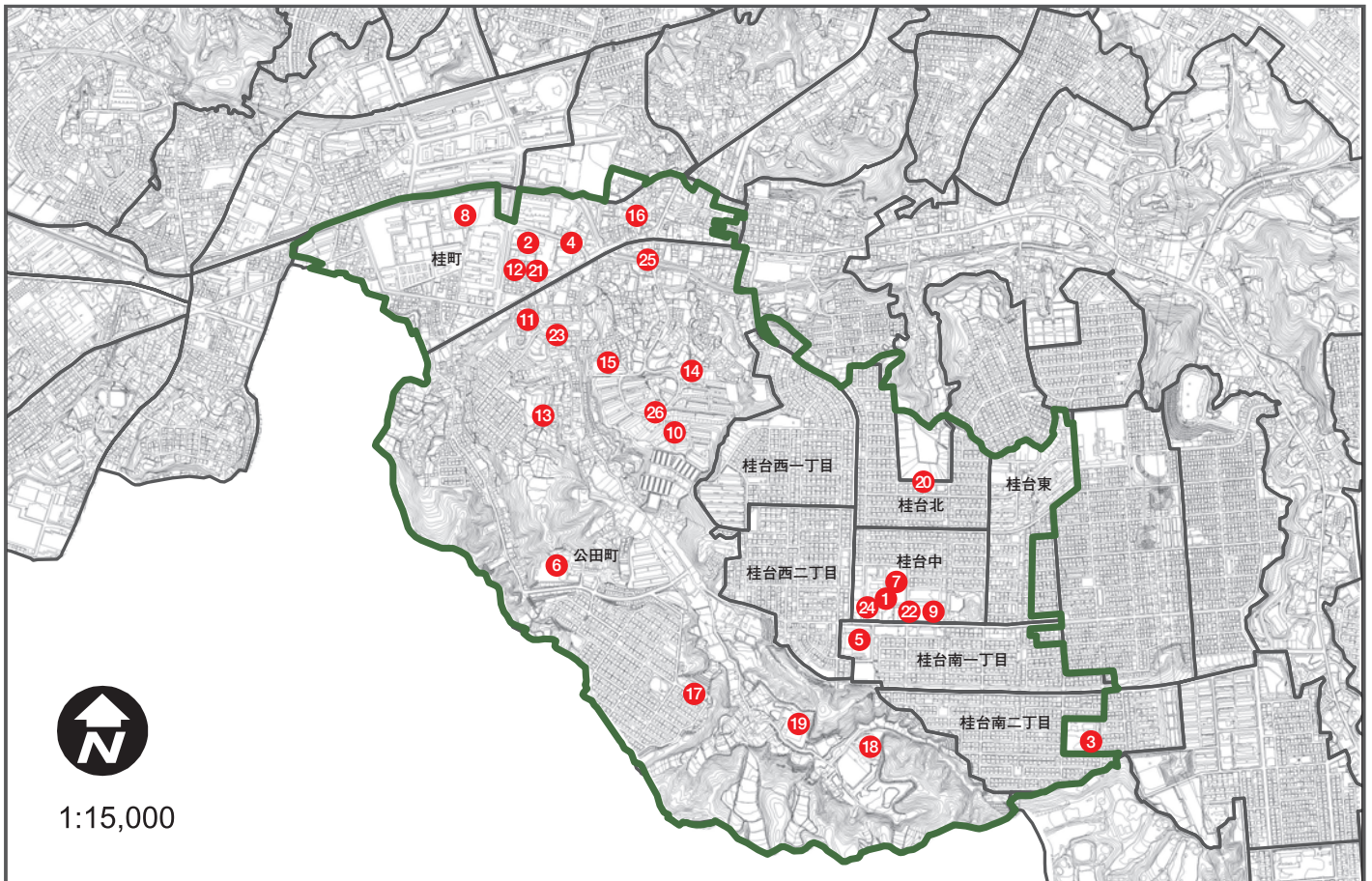
- 情報が届きにくい人に口コミや手渡しによって情報が届き、いざというときの助けになる
- 地域活動を知ってもらうことで、活動に参加しやすくなり、参加者が増える
- 閉じこもりがちな人に、身近な人が地域の情報を提供することで、参加しやすくなる
- 情報を伝えるだけではない、関係づくりの担い手を増やす



本郷中央地区

(1) 本郷中央地区の概要

本郷台、港南台の2駅が最寄駅で、バスにより大船駅、港南台駅を利用する方も多い地区です。公田町、桂町、桂台北、桂台中、桂台西一～二丁目、桂台東、桂台南一～二丁目からなります。丘陵地の開発住宅地では、建築協定や地区計画等により良好な住環境が保全されています。環状4号線周辺に区役所や公会堂・スポーツセンターなどの公共施設や商店街が集まっています。また、荒井沢市民の森など、豊かな自然資源が残されています。特に鎌倉市境の台地には、農地が広がり、里山の景観を色濃く残しています。



横浜市まちづくり調整局都市計画基本図データにより作成【横浜市地形図複製承認番号 平21 まち都計第3257号】

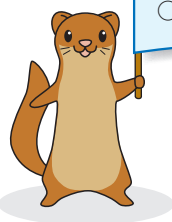
(2) 施設等の地域資源 (平成21年12月現在)

区分	番号	名称	区分	番号	名称	
公共施設	①	桂台地域ケアプラザ	横浜保育室	⑭	くでん・あすなろ保育園	
	②	本郷地区センター		⑮	つくし共同保育所	
	③	上郷コミュニティハウス	次世代交流施設	⑯	(仮称)次世代交流ステーション (平成23年3月開設予定)	
	④	栄区福祉保健活動拠点ピアハッピー栄		⑰	クロスハート栄・横浜	
小学校	⑤	桂台小学校	特別養護老人ホーム	⑱	ライフコートさかえ	
	⑥	公田小学校		⑲	リハビリポート横浜	
中学校	⑦	桂台中学校	介護老人保健施設	⑳	デイサービスセンター ほほ笑み桂台	
	⑧	本郷中学校		㉑	通所介護 すずらん	
保育園	⑨	桂台保育園	通所介護 (デイサービス)	㉒	朋(とも)	
	⑩	公田保育園		㉓	さかえ福祉活動ホーム	
	⑪	かつら愛児園		㉔	サポートセンター 径(みち)	
届出済認可外保育室	⑫	OYAKO CLUB チューリップ		障害者のための施設	㉕	地域作業所 草の実
	⑬	ふぁみりーさぽーと“のあ”				

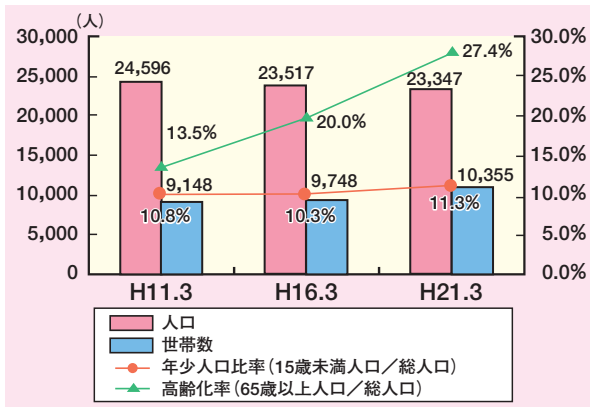
※ ⑫「お互いさまねっと いこい」 地域交流拠点(公田町団地)

(3) 本郷中央地区の統計データ

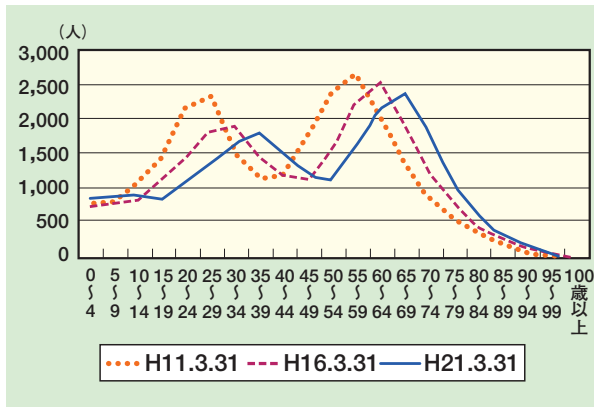
- この10年で人口は2,249人の減少、世帯数は1,207世帯の増加となっています。
- 15歳未満の年少者の割合は、平成11年には9.3人に1人でしたが、平成21年には8.8人に1人に増加しています。65歳以上の高齢者の割合は、平成11年には7.4人に1人でしたが、平成21年には3.6人に1人に増加しています。
- 人口の一番多い年齢層が、平成11年では55～59歳、平成21年では65～69歳となっています。



■人口・世帯数・年少人口比率・高齢化率の推移



■年齢層別の人口変化



(4) 本郷中央地区分科会の様子

〔会場〕 桂台地域ケアプラザ

〔開催の状況〕

	開催日	参加人数	検討内容
第1回	6月26日	19名	まちの現状・課題の共有と課題の優先順位の検討
第2回	8月7日	17名	地域の課題に対する行動計画の検討
第3回	9月9日	14名	地域の課題に対する行動計画の具体化

〔地区分科会での意見や感想〕

- 多くの意見ができました。より良いまちづくりのために課題に取り組んでいきたいと思います。
- 参加できなかった人が多いように思いますが、できなかった人へも情報が伝わるようお願いしたいと思います。
- 連合町内会の中でも小さな地域によって課題が違い、また共通の課題がありで、やはりこうやって話し合うことが大事と思いました。

その他多数のご意見・ご感想を出し合いました。

活発な話し合いになりました!



テーマ

1 情報発信

2 担い手の発掘

3 重要地区に
支援体制づくり
にあつた
支援者のあつた

4 健康づくり

5 交通利便性の
低下により生じる
ニーズへの対応

取組内容

- ①本郷中央地区の広報体制づくり
・社会資源マップ作り
・スーパー・店舗を活用した情報の発信
・子育て世代へ地域情報を発信する
- ②支えあい連絡会ボランティア分科会の拡充
- ③参加型事業からの広がりを通じた担い手の発掘
・子ども支援菜園事業
・参加型事業を通じた多世代交流

- ①災害時要援護者避難支援の取組の推進
- ②各自治会・町内会の災害時要援護者避難支援の取組を共有化

- ①身近なところでの健康づくり活動の実施
・地域での体力測定会の実施
・公園の健康遊具の活用
・参加しやすくするために、健康づくり活動グループ同士の話し合いの場をつくる
- ②地域の中での啓発活動と報告

- ①買い物支援についての情報交換の場づくり



取組の体制

- ①支えあい連絡会で検討
- ②支えあい連絡会ボランティア分科会
- ③ 民生委員 各種団体
- ④地区社会福祉協議会

- ①自治会・町内会
民生委員、友愛活動推進員等
ボランティア（支援：区役所）
- ②連合（自治会・町内会）
民生委員、友愛活動推進員等

- ①・②保健活動推進員
シニアクラブ
食生活等改善推進員
（ヘルスマイト）
体育指導委員
まちぐるみ健康づくり実行委員会
健康づくり活動グループ
（支援：地域ケアプラザ・区役所）

- ②支えあい連絡会で検討



取組達成

- ①本郷中央地区の情報発信している
- ②ボランティアグループの活動にわれ、支えあい連絡会等の場で活動推進員、友愛活動推進員、消指指導委員、食生活等改善推進
- ③それぞれの地域で子育て型事業等が行われ、多世
- ④地域の福祉課題・生活課題を各地区の問題解決の糸口を

- ①各自治会・町内会で取組が推進されている
- ②各自治会・町内会の取組れている

- ①身近なところで健康づくりが増えている
- ②健康づくりに関する意識行われ、それを報告する

- ①買い物支援についての情
要な取り組みを行うため

※黒ポチは取組みの例示です。

※支えあい連絡会

の指標

について話し合う場がで

ついて、情報共有が継続的に行
自治会・町内会と民生委員、保健
費生活推進員、青少年指導員、体
員等にも情報が共有されている

て世代を巻き込んだ参加
代交流が広がっている

テーマとした講座が開催され、
見出す機会となっている

み方法や体制が整い、取

を共有する場が設定さ

り活動に参加できる機会

を高めるための活動が
場がある

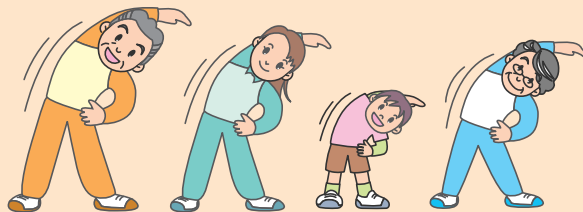
報交換をきっかけに、必
の検討がされている

将来像

「身近な場所に広報物を置くことで、情報が届きにくい方にも地域情報が伝わりやすくなっている」「たくさんの情報がある中で、最新の情報が分かりやすく提供されている」
「自治会・町内会と、民生委員、保健活動推進員、友愛活動推進員、消費生活推進員、青少年指導員、体育指導委員、食生活等改善推進員等と、ボランティアグループが、それぞれの活動について情報共有し、連携した取組が推進されている」
「地域活動を子育て世代にも情報発信することで、参加をきっかけに担い手へとつながっている」
「隣近所でのコミュニケーションが良くなり、お互い助け合う精神・風土が育まれている」
「地域の人同士が顔見知りになる事で困った時にお互いに助け合いができています」

「地域にあるグループ間の連携が強まっている」
「情報が届きにくい人に情報が届けられる関係が増えている」
「最後の一步が踏み出せない人に声をかける事で孤立の予防となっている」
「隣近所でのコミュニケーションが良くなりお互い助け合う精神・風土が生まれている」
「訪問活動がしやすくなっている」

「健康に関心を持ち、健康づくり活動を身近なところで継続して推進している」
「隣近所でのコミュニケーションが良くなり、お互い助け合う精神・風土が育まれ孤立の予防が図られている」



「高齢者や乳幼児を持つ親など外出困難な方の買物が行いやすくなっている」
「地域活動への参加がしやすくなり、まちの活性化にもつながっている」
「顔の見える関係が作られ、災害時の見守りにもつながっている」

自治会訪問により 集約した課題(※)

自治会運営について
(継続性、人材不足)

元気なシニアへの
活動支援

閉じこもりの高齢者
へのかかわり

身近な子育て支援
(子ども会の運営について等)

安心・安全なまちづくり
(防災・防犯)

要援護者の把握について
(安否確認のシステムづくり)

閉じこもりの高齢者
へのかかわり

元気なシニアへの
活動支援

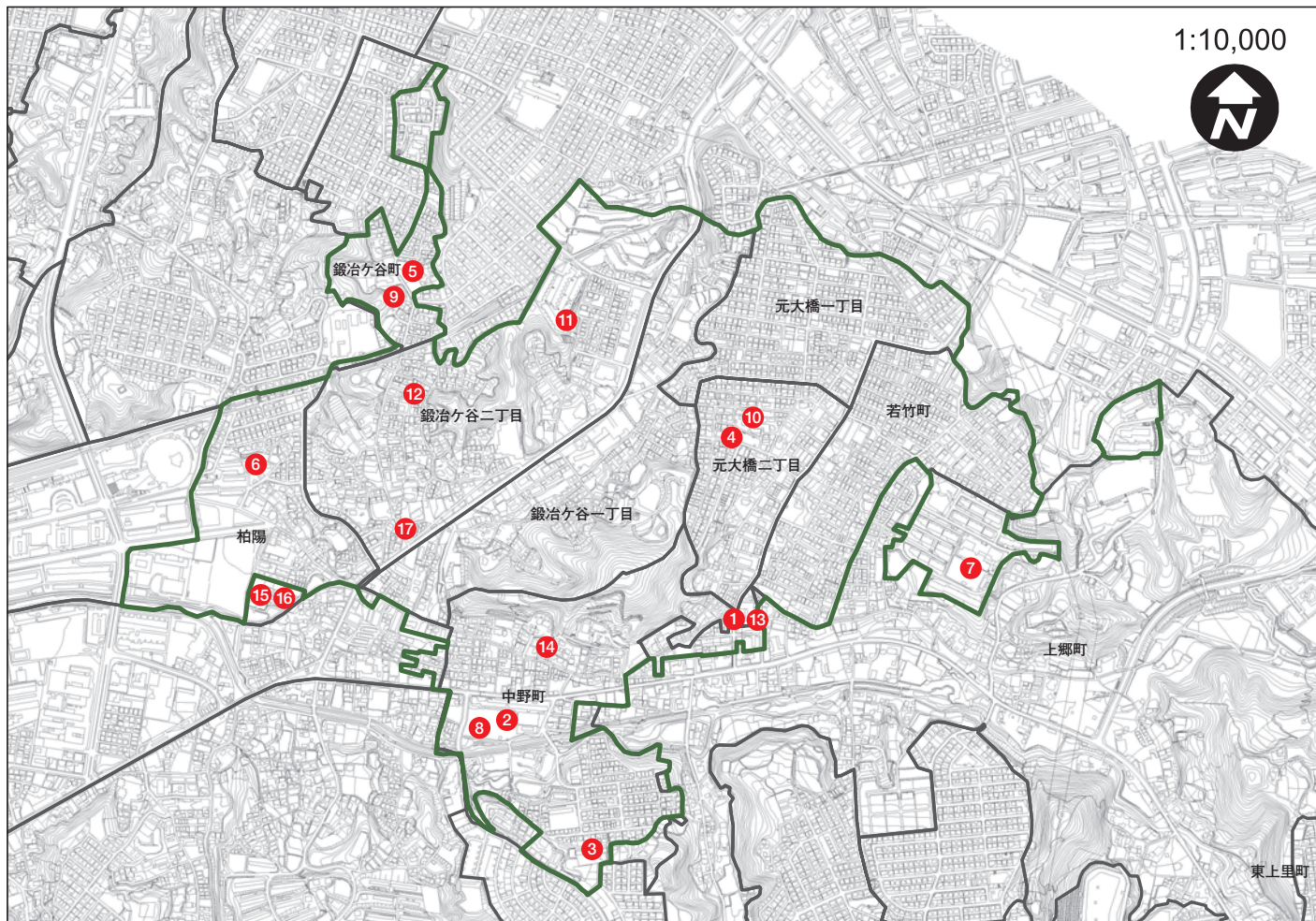
閉じこもりの高齢者
へのかかわり

コミュニティバスなど
公共交通機関の充実

本郷第三地区

(1) 本郷第三地区の概要

徒歩やバスにより本郷台、港南台の2駅を利用する方が多く、中野町、鍛冶ヶ谷町、鍛冶ヶ谷一～二丁目、若竹町、元大橋一～二丁目、柏陽などからなります。古くからの住宅地などで高齢化が進行していますが、一方で駅徒歩圏や幹線道路沿道でのマンション開発に伴い子育て世帯が増加しています。地区には古民家や手作り体験ができる「本郷ふじやま公園」があり、地域交流の場として利用されています。



横浜市まちづくり調整局都市計画基本図データにより作成【横浜市地形図複製承認番号 平21 まち都計第3257 号】

(2) 施設等の地域資源 (平成21年12月現在)

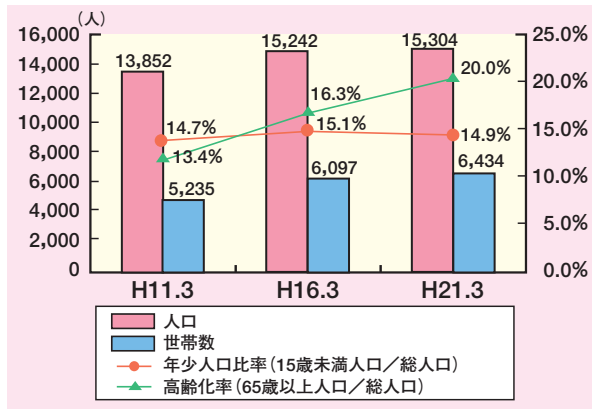
区分	番号	名称	区分	番号	名称
公共施設	①	中野地域ケアプラザ	認可 こども園	⑩	中野どんぐり保育園
	②	本郷小コミュニティハウス	特別養護老人ホーム	⑪	陽のあたる丘MISONO
幼稚園	③	清心幼稚園	通所介護(デイサービス)	⑫	デイサービス であいばこ
	④	中野幼稚園	障害者のための施設	⑬	SELP・杜(もり)
	⑤	やまゆり幼稚園		⑭	わ〜くくらぶ・さかえ
	⑥	鍛冶ヶ谷カトリック幼稚園		⑮	CAN(朋第2)
⑦	桜井小学校	⑯		すぺーすモモ	
小学校	⑧	本郷小学校	⑰	かつら工房、サンライズ	
	⑨	やまゆり保育園			

(3) 本郷第三地区の統計データ

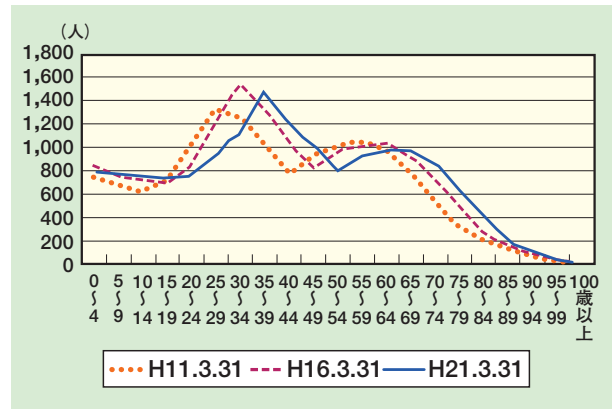
- この10年で人口は1,452人の増加、世帯数は1,199世帯の増加となっています。
- 15歳未満の年少者の割合は、平成11年には6.8人に1人でしたが、平成21年には6.7人に1人に増加しています。65歳以上の高齢者の割合は、平成11年には7.5人に1人でしたが、平成21年には5.0人に1人に増加しています。
- 人口の一番多い年齢層が、平成11年では25～29歳、平成21年では35～39歳となっています。



■人口・世帯数・年少人口比率・高齢化率の推移



■年齢層別の人口変化



(4) 本郷第三地区分科会の様子

〔会場〕 中野地域ケアプラザ

〔開催の状況〕

	開催日	参加人数	検討内容
第1回	7月26日	23名	本郷第三地区の現状と課題を共有しよう
第2回	8月23日	22名	優先課題の行動計画について話し合おう(望ましい町の姿、具体的な行動計画など)
第3回	9月26日	23名	本郷第三地区の計画をまとめよう

〔地区分科会での意見や感想〕

- 他の自治会・町内会も同じ様な問題を抱えていることが分かった
 - 1つのテーマに絞って話し合えたので、ある程度の話の深まりが出た
 - 大きなテーマでどうなるかと思っていましたが、参加できて勉強になりました
 - 積極的な意見を出し合い、今後の活動に大いに役立つと思われま
- その他多数のご意見・ご感想を出し合いました。

活発な話し合いになりました!



取組 1

目標:地域が支えあっていくまちづくりを推進します

取組 2

目標:各組織の機能や活動を

テーマ
推進

取り組みの内容

主な検討メンバー
取り組みを検討していく場

将来像
(こうなったらいいな)

1.日ごろからの支えあい・見守りを推進しよう

- ①隣近所との挨拶や声掛けなどを通じて地域で顔の見える関係をつくり、お互いが支えあうまちづくりや防犯対策を進めよう
- ②民生委員・保健活動推進員・友愛活動推進員が中心となり、支援を必要とする人の情報を適正な範囲で共有し、「どういった手助けが必要か」を把握しよう
- ③高齢者対策は高齢者の自立生活支援を基本に、利用可能なサービス情報の提供、高齢者の支えあいなど支援を拡充しよう

連合町内会、町内会・自治会(①、②、③)
地区社会福祉協議会(①、②、③)
民生委員・児童委員(①、②、③)
保健活動推進員(①、②、③)
友愛活動推進員(①、②、③)
ボランティア団体(①、③)
消費生活推進員(①)

- 見守り活動により、支援が必要な人の把握が進んでいる
- 地域で困っている人の情報が把握されて、地域から専門機関に情報が届き、具体的な支援につながる仕組みができています

2.災害時要援護者対策を進めよう

- ①町内会・自治会で取組を進め、先進事例を共有しよう
- ②個人情報の適正な取り扱いについて理解を広めよう
- ③要援護者の把握と同時に、支援者を増やし取組を進めよう



町内会・自治会(①、②、③)
地区社会福祉協議会(②、③)
民生委員・児童委員(②、③)
防犯指導員(③)
消防団(③)
家庭防災連絡員(②、③)

- 災害時に要援護者の支援体制ができています
- 防災訓練で避難場所への誘導が実施できている
- 訓練を通じて支援者が増えている

1.地域活動の理解者を増やそう

- ①本郷第三地区ふれあいまっぶを改訂しよう
地域のインフォーマルサーピスや、地域お役立ち情報等をまとめた、パンフレットを作る
- ②町内会・自治会まち自慢PR冊子をつくろう(「ウェルカムマイタウン」)
まち自慢活動や取組の紹介、町内会・自治会費の使途、災害時における地域の支えあい活動の必要性やメリットを具体的にPRする

町内会・自治会(②)
地域支えあいネットワーク(①)
地域ケアプラザ(①)

- 転入者層などが、町の一員としての意識や活動への関心が高まり、活動の担い手として活躍するようになっている
- 町内会・自治会加入率が増加している

2.地域き

- ①広報町内や回体の続し域で人に動を人に
- ②ホー新たとし作成に情さま参加

町内会・地区社地域支(①)
各種団保健活導員、体活推進活動推ボラン代表者

- いろ情報参加
- 若い関わ活動なっ

充実します

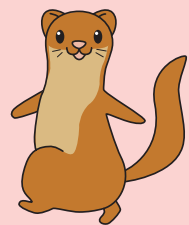
活動参加の
かけをつくろう

活動を強化しよう
会・自治会の掲示板
覧を活用して、各団
活動紹介・行事を継
てPRする。また、地
身近な相談を受ける
配ることで、地域の活
知ってもらい、周りの
声をかけてもらう
ムページを作成しよう
な情報発信の手段
で、ホームページを
し、いろいろな世代
報を提供することで、
ざまな地域活動への
を促していく

自治会(①、②)
会福祉協議会(①、②)
えあいりネットワーク

体(民生委員児童委員、
動推進員、青少年指
育指導委員、消費生
員、シニアクラブ、友愛
進員、子ども会等)(①)
ティアグループなどの
(①)

異なる世代の人に、
が届くようになり、
者が増えている
世代や地域活動に
りの薄かった人が、
に参加するように
ている



取組 3

目標:地域を支える担い手を活性化します
~やってよかったと思えるように、お互いに感謝の心を伝えあおう~

1.あらゆる場面で人材の
確保・担い手の育成をしよう

- ① ボランティア、町内会・自治会
活動などへの参加者を増やす
・活動の楽しさを担い手・参加
者に伝える
・町内会・自治会でアンケートを
実施し、地域のニーズに応え
る行事を開催する
- ② 数年先を見越した人材確保
・行事の参加者の中から担い
手が生まれるように、声かけを
励行する
・2年後、3年後に活動できる人
を見つけ、積極的をお願いする
- ③ 小中学校との連携
・連合町内会単位で学校に行
事への参加や手伝いを呼び
かける

町内会・自治会(①、②、③(連
合含む))
地域支えあいネットワーク(①、
②、③)
各種団体(①、②)
ボランティア団体(①、②)

2.誰もが担い手になりやすく
継続できる仕組みを作ろう

- ① 一人ひとりの活動の充実を図る
・役割が集中しないよう、みんなで分担
・費用弁償の仕組みを浸透させる
・規約改正で役員増、複数年担当を実現
・誰でも担当できるよう丁寧に伝達をす
る
- ② ちょっとボラでいきいきまちづくり
・多世代の人がちょっとしたボランティア
活動に参加できるよう支援し、他分野
の活動へと幅を広げやすい環境を生み
出す
例:子ども会の保護者が他のボランテ
ィアへ
- ③ 人材育成のための魅力的な研修の開催
・他の地区の先進事例や、活動の安全管
理、事故予防等を学ぶ

町内会・自治会(①、②、③)
地域支えあいネットワーク(②、
③)
各種団体(①、②、③)
ボランティア団体(①、②、③)

- 継続的に活動に関わっている人が現在よりも増えている
- 担い手の平均年齢が若返っている
- 小中学生や子育て世代など新たに活動に参加する人が現在よりも増えている



取組 4

目標:地域の居場所づくりと
コミュニケーションを促進します

1.様々な世代の人が交流する場を
つくりコミュニケーションを促進しよう

- ① 子ども達との交流の充実・世代間の交流イベ
ント(イベントを開催し交流しよう)
・学校とも連携し町内会館等でサークルづくり、
子ども会の運動会、地域清掃等の地域イベ
ントを実施し、子ども達と様々な年齢の人が
楽しく交流できる環境にする
・子育て中の親子や小中学生の居場所となる
多世代交流の場をつくる
- ② サロンの充実(新しい井戸端づくり)
施設での開催だけでなく、より多くの方が参
加できるよう公園で開催するほか、サークル
活動と連携するなど新たにサロンを開設する
- ③ 健康づくりの場を通じた交流の場づくり
地域の健康づくり活動の場を、自身の健康づ
くりだけでなく、様々な年代の人が参加する
交流の場として活用しよう
- ④ 他の地区活動を学ぶ情報交換会の開催
他の地区の先進事例に学ぶ

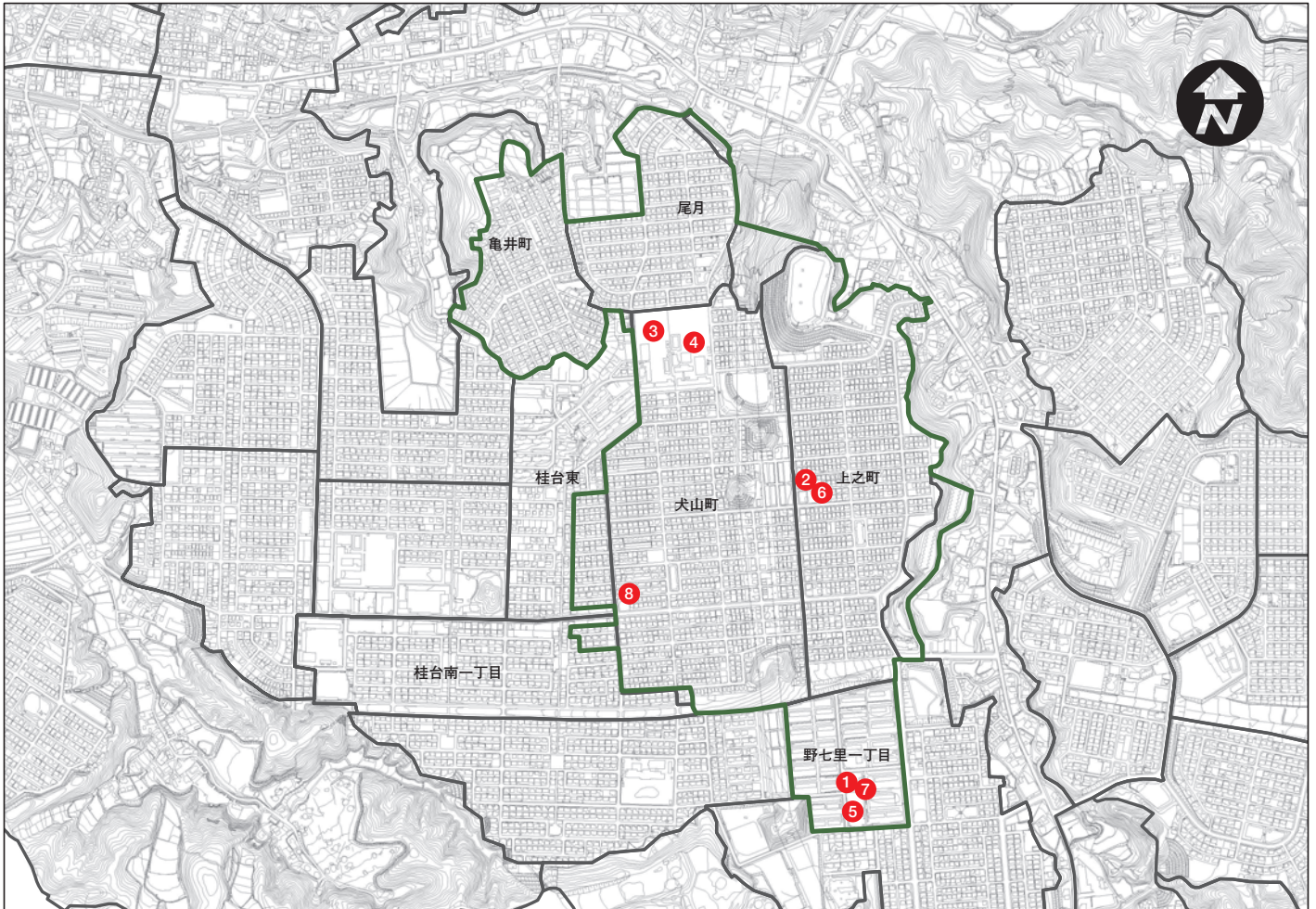
町内会・自治会(①、②、③、④)
地区社会福祉協議会(①、②、④)
地域支えあいネットワーク(①、②、
③、④)
保健活動推進員(③)
青少年指導員(①)
体育指導委員(①)
子ども会(①)
シニア団体(①)

- イベント、居場所づくりなどでお
互いに交流・連携することによ
り、地域の中で多世代にわたり
顔の見える関係づくりができて
いる
- サロン活動が広がり、町内会・自
治会ごとに一つを目安に歩い
ていける場所に活動の場がで
きている
- どの年代の人たちも健康づく
りの必要性を理解して、活動を
継続している人が増えている
- 情報交換会を通して、地域の活
動が活性化している

上郷西地区

(1) 上郷西地区の概要

バスにより、大船、港南台を利用する方が多い地区です。犬山町、尾月、上之町、亀井町などからなります。ほとんどが昭和40年代に開発された住宅地であり、現在も当初からの居住者が多く、地区全体で高齢化が進行し、人口減少の傾向にあります。隣接して上郷市民の森や稲荷森の水辺広場などがあります。



横浜市まちづくり調整局都市計画基本図データにより作成【横浜市地形図複製承認番号 平21 まち都計第3257 号】

(2) 施設等の地域資源 (平成21年12月現在)

区分	番号	名称
公共施設	①	野七里地域ケアプラザ
幼稚園	②	いのやま幼稚園
小学校	③	上郷小学校
中学校	④	上郷中学校
保育園	⑤	上郷保育園
認定こども園	⑥	いのやま保育園
特別養護老人ホーム	⑦	クロスハート野七里・栄
通所介護(デイサービス)	⑧	福祉クラブ生協 Dayいのやま
地域密着型サービス施設		

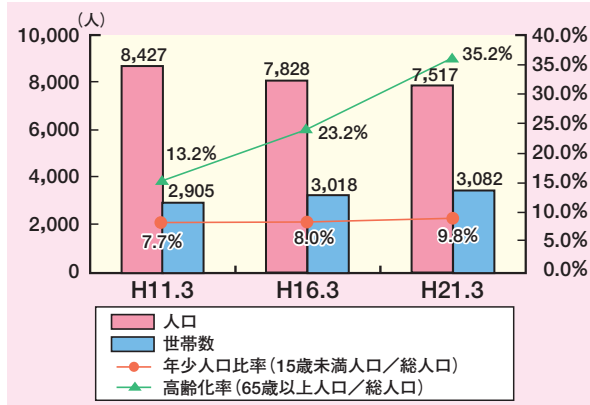


(3) 上郷西地区の統計データ

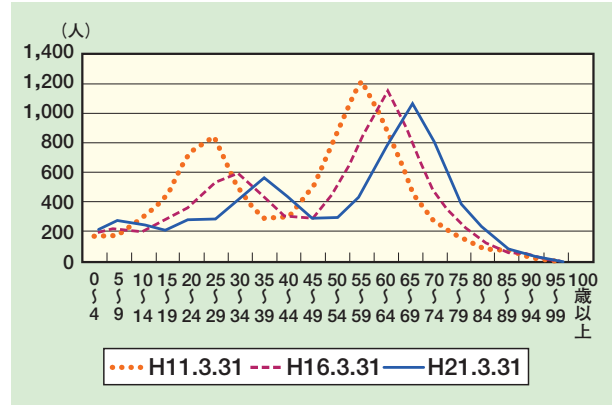
- この10年で人口は910人の減少、世帯数は178世帯の増加となっています。
- 15歳未満の年少者の割合は、平成11年には13.0人に1人でしたが、平成21年には10.2人に1人に増加しています。65歳以上の高齢者の割合は、平成11年には7.6人に1人でしたが、平成21年には2.8人に1人に増加しています。
- 人口の一番多い年齢層が、平成11年では55～59歳、平成21年では65～69歳となっています。



■人口・世帯数・年少人口比率・高齢化率の推移



■年齢層別の人口変化



(4) 上郷西地区分科会の様子

〔会場〕 野七里地域ケアプラザ

〔開催の状況〕

	開催日	参加人数	検討内容
第1回	7月30日	20名	地域の現状と課題の共有
第2回	9月1日	20名	地域の課題に対する行動計画の検討
第3回	10月7日	18名	地域の課題に対する行動計画の具体化

〔地区分科会での意見や感想〕

- 活動しているにもかかわらず、見えていないことが結構あることに気付いた。
- 三世代の交流を地域ぐるみでできれば、地域の活性化が可能となる。
- 話し合いを積み重ねてきたことを、具体的にまとめることができよかった。今後、自分の関わっている活動の方向性も見えた気がします。
- 具体的な提案がいくつか出されたが、これの実現を目指すための組織的な仕組みができることを期待しています。その他多数のご意見・ご感想を出し合いました。

活発な話し合いになりました!



テーマ

取組内容

1

みんなに届くまちの情報
〜分かりやすく伝えます〜

①福祉保健に関する情報サイトの開設



②サロンの場の活用や自治会・町内会との連携による情報発信

③隣近所の立ち話や井戸端会議のような、日頃の関わりから情報が伝わる仕組みづくり

地域の身近な場所（地域ケアプラザ、地区センターなど）へのパソコン設置を検討し、支えあい連絡会のHPに上郷西地区の情報を追加していきます
追加する情報：子育てや人材バンク等の福祉保健情報（既存のハンドブックを参考に、桂台・野七里・中野地域ケアプラザエリア内の趣味・特技・資格を活用してくれる人材を掲載する）

サロンの場の活用や自治会との連携により、情報を発信していきます

情報の届きにくい方のために、隣近所の立ち話や井戸端会議のような、顔を合わせて情報を届けられる仕組みを検討します

2

地域交流の場の拡充と地域
デビューのきっかけをつくらう

①外に出にくい方も集まれる場づくり

②イベントを通じた三世代交流と人材発掘

③既存グループ同士の交流

送迎も可能な会食のつどいなど、ボランティアグループが連携し集まれる場づくりを行います

三世代が楽しめるイベントや、シニアの知恵や特技を発揮できる場をつくります

情報共有や、グループの得意分野を活かした連携を進めるための交流会等を実施します

3

災害へ備えよう！

①防災対策の充実

②見守りの充実（要援護者対策）

③顔の見える関係づくり

a, 家具転倒防止策の地域への普及
b, 防災講座の地域内での実施
c, 防災訓練の実施

a, 災害時要援護者避難支援の取組の推進
●災害時に支援の必要な方の把握
●要援護者を取り巻く人間関係の把握（支援者）

a, 世代間交流のイベント開催
b, 地域ネットワークの活用
c, 民生委員・友愛活動推進員・保健活動推進員間の連携強化

取組体制

ホームページの作成・管理:人材を集めて新たなグループを立ち上げる

自治会・町内会、ボランティアグループ(サロン等)

自治会・町内会、委嘱役員、ボランティアグループ等

主体：地区社会福祉協議会

運営：ボランティアグループ

連携：民生委員（情報提供・声かけ）

青少年指導員、シニアクラブ、ボランティアグループ 等

地区社会福祉協議会

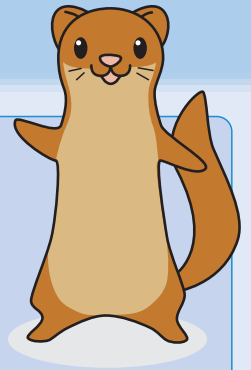
自治会・町内会
ボランティアグループ



自治会・町内会

自治会・町内会、民生委員、保健活動推進員、友愛活動推進員、シニアクラブ、子ども会、ボランティアグループ等

目標・将来像



●人材バンクや子育てに関する情報等、地域に身近な情報を伝えるサイトが設置され、広く地域に向けた情報発信が行われている

●サロンや自治会・町内会などで地域とのつながりがある方に、より地域の活動が伝わるよう情報を発信している

●地域とのつながりが薄く情報が届きにくい方に、日頃の関わりから情報が伝わる仕組みができています

●既存グループ同士での世代間交流の場となっている

●参加者との顔の見える関係づくりが進んでいる

●運営ボランティアが確保され、定期的実施されている

●外に出にくい方が集まれる場ができています

●イベントを通して新しい交流が生まれている

●新しい人材発掘ができています→人材バンクにつながる

●顔の見える関係づくりや安心安全なまちづくりの推進につながる体制ができています

●地域でのイベントを協力して行う体制ができています

●取組が実施され、地域の防災意識が高まっている

●要援護者の把握が進み、日頃からの見守りの体制が推進されている

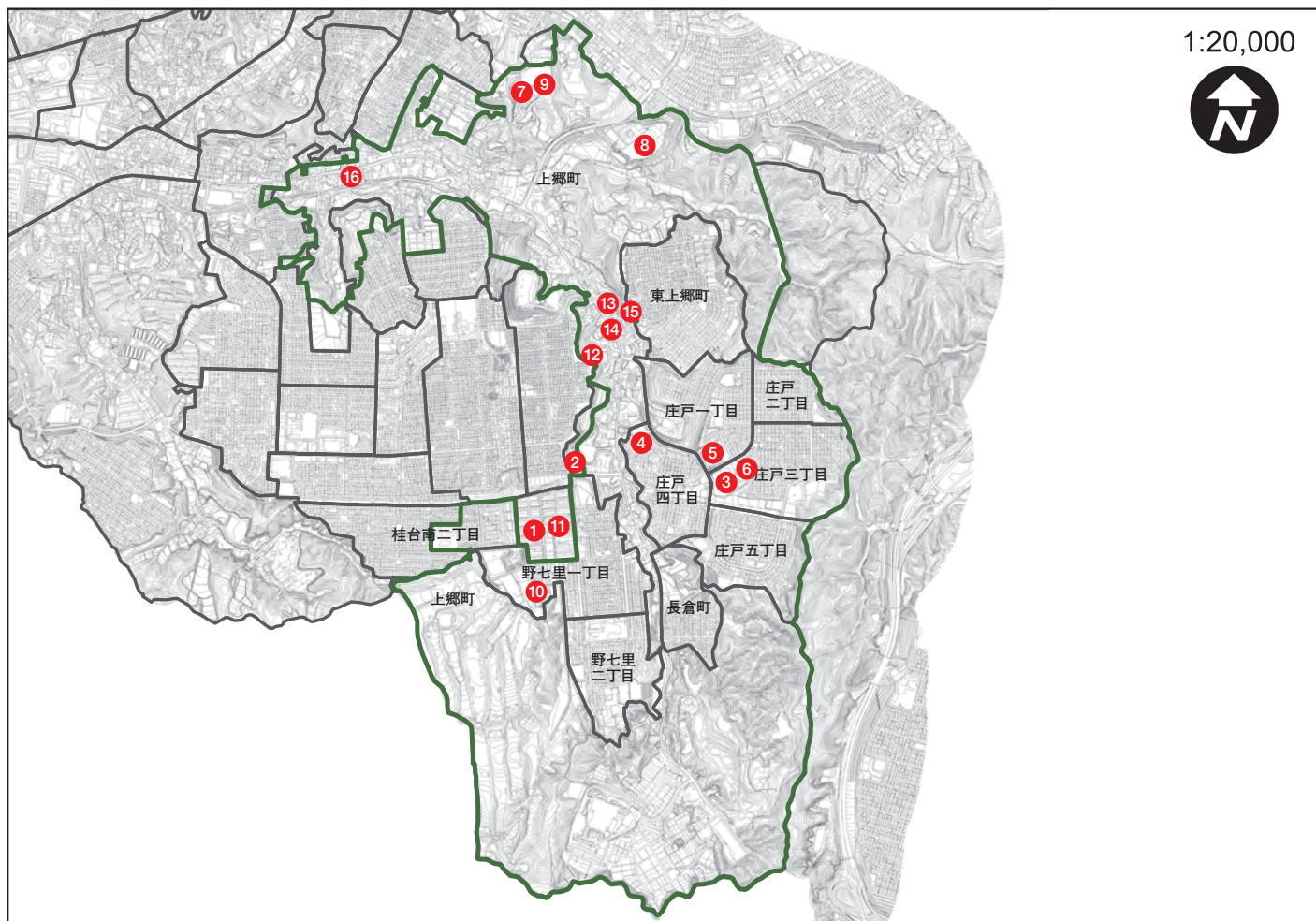
●要援護者も含めた防災訓練が実施できている

●各取組みを推進することで、災害時に備えた日頃からの「顔の見える関係づくり」が進んでいる

上郷東地区

(1) 上郷東地区の概要

港南台、本郷台、大船の3駅を利用する方が多く、バス利用も多い地区で、上郷町、庄戸一～五丁目、長倉町、東上郷町、野七里一～二丁目などからなります。丘陵部には昭和40年代に開発された住宅地が点在し、環状4号線沿いは商店や飲食店、工場、住宅等が混在しています。いたち川上流の瀬上沢、瀬上市民の森や上郷市民の森、横浜自然観察の森といった自然環境が豊かな地域でもあります。



横浜市まちづくり調整局都市計画基本図データにより作成【横浜市地形図複製承認番号 平21 まち都計第3257 号】

(2) 施設等の地域資源 (平成21年12月現在)

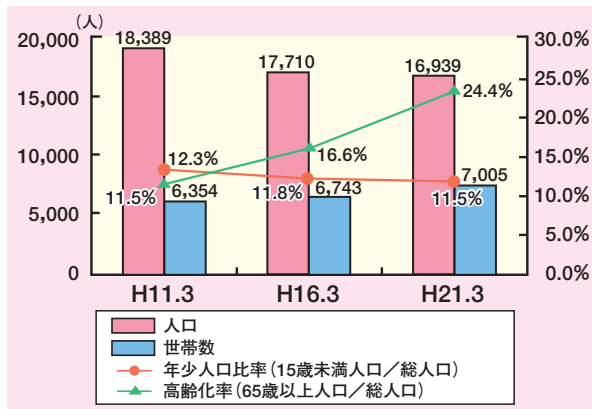
区分	番号	名称	区分	番号	名称
公共施設	①	野七里地域ケアプラザ	高等学校	⑨	山手学院高等学校
	②	上郷地区センター	特別養護老人ホーム	⑩	上郷苑
	③	庄戸中コミュニティハウス		⑪	クロスハート野七里・栄
幼稚園	④	上郷幼稚園	介護老人保健施設	⑫	湘南グリーン介護老人保健施設上郷
小学校	⑤	庄戸小学校	サ ー ビ ス 施 設 地 域 密 着 型	⑬	小規模多機能型居宅介護
中学校	⑥	庄戸中学校		⑭	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
	⑦	山手学院中学校		⑮	のぞみの家 上郷
高等学校	⑧	県立栄高等学校	障害者のための施設	⑯	杜のマーケット

(3) 上郷東地区の統計データ

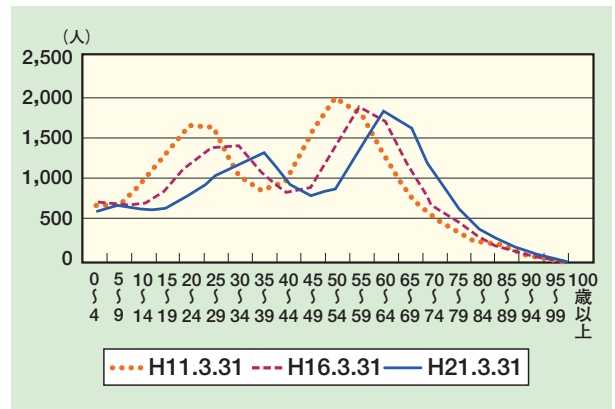
- この10年で人口は1,450人の減少、世帯数は651世帯の増加となっています。
- 15歳未満の年少者の割合は、平成11年には8.1人に1人でしたが、平成21年には8.7人に1人に減少しています。65歳以上の高齢者の割合は、平成11年には8.7人に1人でしたが、平成21年には4.1人に1人に増加しています。
- 人口の一番多い年齢層が、平成11年では50～54歳、平成21年では60～64歳となっています。



■人口・世帯数・年少人口比率・高齢化率の推移



■年齢層別の人口変化



(4) 上郷東地区分科会の様子

〔会場〕 野七里地域ケアプラザ・中野地域ケアプラザ

〔開催の状況〕

	開催日	参加人数	検討内容
第1回	7月18日	51名	地区(自治会町内会)ごとに意見交換をしよう
第2回	11月21日	37名	7つの課題について考えよう

〔地区分科会での意見や感想〕

- 問題点をいかに共有するか日常の努力が必要。相互理解をいかに深めるか
- 近所付き合いの必要を改めて感じた
- 福祉保健関係者が一同に集まった企画は素晴らしい。今後も年に2～3回程開催してはどうか
- 何が必要なのかを考え、できることから始めることが必要なのは
その他多数のご意見・ご感想を出し合いました。

活発な話し合いになりました!



地域福祉保健計画 上郷東地区別計画

基本方針・目標

1 担い手の発掘

〔地域の舞台に立ち、主体的に活動へ参加する人を増やし担い手を増やす〕

2 情報の受発信

〔必要な情報が入手できる環境をつくる〕

3 健康・生きがいづくり

〔地域で健康づくり事業を支援し促進する〕

4 交流の場づくり

〔誰もが、気軽にに行ける交流の機会を充実させる〕

5 生活環境の向上

〔地域で見守りささえあいまちづくり〕

6 高齢者障害者等支援

〔住み慣れた地域で暮らせる自立した生活を、皆で支えあう〕

7 次世代育成・支援

〔子ども、青少年の地域での関わり、交流を深める〕

今後の課題

地域福祉の担い手を増やす

地区社協事務局機能を強化する

様々な活動に自主的に参加することを呼びかけるとともに、OB・OGを活用する
若い人にも声を掛けて担い手の発掘につなげる
退職者への地域活動参加の呼びかけ

各機関、各種団体の持つ情報の共有化を図る

連合町内会福祉総務部会の活性化

地区社協だよりの定期発行

健康づくりと地域コミュニティづくりを拡大する

地域ケアプラザを知る仲間づくり

町内会・自治会ごとにサロンを設立する

交流拠点、集まれる場所づくり

高齢者のおしゃべりサロン

各町内会・自治会単位の「見守りネットワーク」を設立する

災害時要援護者避難支援の取組を進める

高齢者の見守りネットワークづくり

障害がある人もない人も地域で当たり前で暮らせる環境づくり

小さな地域での見守り・支えあいをつくる

自由に利用できる親子の交流スペースをつくる

子育てサロンの開設

シニアと子どもの継続的な交流を図る(グラウンドゴルフ・ハロウィン・文化祭)

子どもたちが担い手になる企画づくり

課題点

- シニアクラブの加入率が低い
- ボランティア活動は強制ではないので、ボランティアの担い手の確保が困難

- 働いている方の参加は難しい

- 各機関・各種団体の連携がとれていない
- 個人情報・情報の保管方法の考え方
- 行政・ケアプラザ・地域との情報共有

- 上郷町・共同住宅の活動が、まだ把握できていない
- 健康づくりや、生きがい趣味系の活動の把握ができていない

- 庄戸・上郷町以外にサロンがない
- 資金的な問題の発生
- サロンを行う場合の場所の確保
(自治会館は鍵がかかっていることが多い)

- 活動場所までの送迎
(高齢者等、どうやって来てもらえるか)

- 会長が1交代なので、台帳等を作成しても、どのように引き継いでいくか
- 一人暮らしの方を把握できていない(上郷町)
- アパートが町内会未加入のため回覧板等で情報共有できない。

- 名簿個人情報の取り扱い

- 駐車場の問題があり、人数が集まりにくい
- ペット関係で、砂場が使用できない場合が多い
- 視点を変えて、子育て支援できる環境を整える(悩みを抱えている方が多い)
- 子どもたちを見守りできる環境を整える

そのため

声掛けを積極的にお次につながるように、
続いて活動していく
ボランティア活動の
※若者へのボランティア
などの工夫

各種団体経験者の
現役をリタイアした
するきっかけをつく
同時に若手ボランティ

情報のすきまを埋め
情報誌はなるべく手
町内会・自治会との
民生・友愛・保健の

活動の把握を行い、
の情報交換を行なう
保健活動推進員は
ところへの働きかけ
男性が入りやすいシ
(調理がキーワード)

こども、高齢者、多世
作り
地域の拠点をさらに
公園などの外遊び
(社会資源の有効活

情報収集、井戸端会議

先進事例を参考にし
昔ながらの向こう三
郷町)他地域では情
区役所・地域が連携

一人暮らし、障害の
せず、地域全体で支

グループホーム等
と相互に交流をしな
向こう三軒両隣、近
守り、支えあう

の具体策	地域での取組例	考えられる推進役・検討するメンバー	こうなったらいいな(将来像)
<p>こなう 結果がでなくても継</p> <p>楽しみを知ってもら ア育成講座実施</p>	<p>・あいさつ運動・清掃活動(庄戸) ・三世代交流(ネオポリス)</p>	<p>地区社会福祉協議会 町内会・自治会 民生委員・児童委員</p>	<p>○自主的に地域の活動に参加する担い手が各世代で確保できている</p> <p>○50～60歳以上の方が積極的に地域活動に参加できるような環境づくり</p> <p>○若い人がボランティアに参加したくなるような町づくり</p>
<p>再活用 人たちの地域デビュー ア活動に力を入れる</p>	<p>グランドゴルフ(シニアクラブ)</p>		
<p>る 渡し等直接渡す 積極的なかわり 情報交換の場作り</p>	<p>・みどりが丘見守りネット 広報誌の発行(1回/2月) ・庄戸サロン機関誌発行 ・各ケアプラザ・行政広報</p>	<p>地区社会福祉協議会</p>	<p>○各地域で活躍されている活動内容や、地域の情報を気軽に知ることができる情報共有システムができている</p> <p>○上郷東連合としての情報ネットワークをホームページ化できている</p>
<p>同じ様な活動同士で できていない を行う ルバーサロン</p>	<p>びわの会(上郷町) ニコニコクラブ庄戸 男性料理の会(庄戸) 歩こう会 グランドゴルフ(シニアクラブ) 健康体操(青葉ヶ丘)</p>	<p>保健活動推進員</p>	<p>○地域住民が、積極的に参加できる開かれた場ができている、世代を超え、気軽に参加できる居心地が良い雰囲気になっている</p> <p>○良い活動を集めて情報交換できる場づくりが確立されている</p>
<p>代が集まりやすい場 活用しよう の開催 用)</p>	<p>健康体操(青葉ヶ丘) 【公園愛好会】 庄戸中コミュニティハウス 上郷地区センター 地域ケアプラザ(中野・野七里)</p>	<p>民生委員・児童委員 各種団体</p>	<p>○身近な地域ごとにサロンなどの交流の場があり、住民同士が、顔の見える関係づくりができている</p> <p>○誰もが気軽にあいさつが交わせる街づくり</p>
<p>て取組を進める 軒両隣方式で解決(上 報収集の必要性 して取組を進める</p>	<p>防犯パトロール(ネオポリス) (野七里小・庄戸小) おそば作り(保健活動推進員) 山ゆり会(ネオポリス) 花水木(庄戸)、梅の家(光明寺) サロンやすらぎ(野七里地域ケアプラザ)</p>	<p>各種団体 各種団体</p>	<p>○要介護者支援や見守りネットワークが、地区ごとに機能している</p>
<p>ある高齢者等が孤立 える体制づくり 暮らす障害者が地域 から生活する 隣でお互い気遣い見</p>	<p>上郷ネオポリス自治会 みどりが丘自治会</p>	<p>自治会・町内会 自治会・町内会、区役所</p>	<p>○各自治会町内会の実態にあったネットワークが確立し、住みなれたまちで、安心して暮らすことができる</p>
<p>ある高齢者等が孤立 える体制づくり 暮らす障害者が地域 から生活する 隣でお互い気遣い見</p>	<p>上郷ネオポリス自治会 みどりが丘自治会、長倉町 すみれ会(共同住宅) 町内運動会へ障害者の参加(上郷町) 介護教室 認知サポート養成講座 (小規模多機能「晴」)</p>	<p>地区社会福祉協議会 地区社会福祉協議会</p>	<p>○各自治会町内会の実態にあったネットワークが確立し、住みなれたまちで、安心して暮らすことができる</p>
<p>隣でお互い気遣い見</p>	<p>あんしんカードの作成</p>	<p>自治会・町内会</p>	<p>○地域全体で子育てする環境ができている</p> <p>○子育てを通して世代間交流が活発になっている</p> <p>○様々なイベントを通じて顔の見える関係作りを築くことができる</p>
<p>モーリーズ(中野地域ケアプラザ) 民生委員・児童委員 すくすく(庄戸) <そうめん流し・もちつきなど> 山ゆり会(ネオポリス) 登下校の見守り(シニアクラブ) にこにこ公園隊(区) ヤングフェスティバル</p>	<p>民生委員・児童委員 シニアクラブ 青少年指導員 体育指導委員</p>	<p>民生委員・児童委員 シニアクラブ 青少年指導員 体育指導委員</p>	<p>○地域全体で子育てする環境ができている</p> <p>○子育てを通して世代間交流が活発になっている</p> <p>○様々なイベントを通じて顔の見える関係作りを築くことができる</p>

